

# 第3回 草津市総合教育会議 議事録

平成29年2月10日開催

草津市立志津南小学校 図工室

出席者	草津市長	橋川 渉
	草津市教育委員会	
	教育長	川那邊 正
	委員	杉江 由紀子
	委員	周防 直美
	委員	檀原 泉
事務局	政策監	佐々木 亨
	総合政策部長	山本 善信
	教育部長	明石 芳夫
	教育部理事	中瀬 悟嗣
	総合政策部副部長（総括）	岡野 則男
	教育部副部長（総括）	居川 哲雄
	教育部副部長（街道交流担当）	八杉 淳
	教育総務課長	太田 一郎
	スポーツ保健課長	岸本 久
	文化財保護課長	藤居 朗
	図書館長	北相模 政和
	学校教育課長	時岡 善也
	学校政策推進課長	高井 育夫
	学校給食センター所長	宇野 秀樹
	企画調整課副参事	有村 潤
	生涯学習課参事	吉田 万里

学校教育課副参事

楠 見 丹生子

志津南小学校長

葛 本 茂 樹

教育総務課参事

松 浦 正 樹

テーマ 「草津市の英語教育推進について」

0. 開催会場である志津南小学校で、ビデオ通話（スカイプ）で外国（フィリピン）と教室を中継し、ネイティブの講師とのコミュニケーション活動を行う、英語オンライン授業を参観。

1. 開会 橋川市長が平成28年度第3回草津市総合教育会議の開会を宣言

2. 学校教育課より、国における英語教育改革の内容や、昨年3月に策定した「草津市英語教育推進計画」に基づき、草津市が取り組んでいる事業などについて報告。

#### 学校政策推進課副参事

初めに草津市小中学校の英語教育の取組をお話します。

まず指導体制については、中学校に外国人の英語指導助手（ALT）を配置しており、ネイティブスピーカーによる発音やスピーキング指導を通して、英語によるコミュニケーション能力の育成を図っているところである。

また、小学校には日本人の英語指導助手（JTE）を配置している。配置により学級担任と指導助手とのチーム・ティーチングが定着しており、また各校に指導計画・指導資料が蓄積されている。そのため、各校、どの学級でも一定安定をした質の高い授業を実現できている。

また、平成22年度から草津市検定事業を行っており、市立中学校の全生徒を対象に英語検定の受験を実施している。受験に向けて一人ひとりが明確な学習目標を持ち、意欲を高めて英語学習に取り組んでいる。

スライド4枚目の右のグラフは、英語検定3級以上相当の英語力を有する中学校3年生以上の割合の推移を表したものである。平成27年度には文部科学省の到達目標を大きく超えた。これまでの英語教育の取組により、草津市の子どもたちが確かな学力を身に付けて中学校を卒業していることを見て分かっていただけるかと思う。

次に、現在の文部科学省による英語教育改革についてお話します。

平成25年に発表された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」をもとに、外国語教育の抜本的強化を進めているところである。この計画においては大学や海外、社会で着実に英語力を伸ばす基盤を作ることを目的として、小・中・高等学校の接続を重視した一貫型の英語教育を目指している。

スライド5枚目の図は、平成32年度を目標にした抜本的強化のイメージを示したものである。小中学校にかかわる重点、3点についてお話します。

まず1点目、外国語教育が新たに小学校3年生から始まる。現在5、6年生で行っている年間35時間の外国語活動を小学校3、4年生で行う。

2点目は小学校5、6年生の外国語活動が教科となることである。授業時数が現在の年

間35時間から70時間に増え、中学校英語科への接続を重視した内容となる。英語を「聞く」「話す」学習に、「読む」「書く」活動が加わり、評価も行う。また、検定教科書が配布される。

3点目は中学校の学習内容が高度化することである。授業は英語で行うことを基本とし、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に活用したコミュニケーション力の育成を図る。平成31年度からは全国学力・学習状況調査にて、英語の4技能の調査が始まる予定である。

このようなイメージを持ちながら、文部科学省は英語教育の目標や内容を具体的に示す学習指導要領の改訂作業を進めており、この3月には新しい学習指導要領が告示される予定である。今後は、平成30年度からの先行実施を経て、平成32年度からは小学校、平成33年度からは中学校において新学習指導要領が全面実施となる。この予定に合わせて本市では、英語教育の充実・強化を図り、また、これまでの取組の成果や草津の強みを生かした新しい英語教育を全小中学校が実施できるようにすることを目的として、平成28年3月に「草津市英語教育推進計画」を策定した。本日は概要版をお配りしているので、後ほど参照いただきたい。

草津の子どもたちは実生活で外国の人と出会う経験が少ないが、将来、社会で自立する頃には、外国の人と一緒に活動したり、外国とやりとりをして仕事をする機会が増えるものと思われる。

そこで本市の英語教育では、スライド7枚目の下部に示す三つの力を育てることを通じて、相手が外国の人であっても主体的に、積極的にコミュニケーションを図り、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、思いや考えを英語で生き生きと伝え合う姿を育成したいと考えている。

この推進計画においては、スライド8枚目に示す三つの基本方向を示している。三つの基本方向とは、1. 草津市小中一貫英語教育カリキュラムの作成と実施、2. 新しい英語教育の指導体制の確立、3. 英語を使ったコミュニケーション・体験活動の推進、この3点である。これらの三つの基本方向を軸に、平成28年度より英語教育推進授業を展開しているところである。

それでは、ここからはこの基本方向に沿って推進している取組の中から四つを取り上げて御紹介していきたい。

一つ目は、小中学校における授業改革である。まず小学校では、本日も見ていただいたが、学級担任とJTE、日本人の英語指導助手との協働授業、チーム・ティーチングの充実を図っている。協働授業のモデルを市内全体で共有しており、全小学校での授業改善を進めている。英語指導の経験の少ない先生であっても、英語指導助手と一緒に前に立ち、簡単な英語表現を用いながら指導する授業を行っている。

また、中学校では、CAN-DOリストの活用と見直しを進めている。ここで言うCAN-DOリストとは、英語を使って何ができるかを具体的に示した学習目標リストである。

例えば、1年生終了時の「書くこと」についてであれば、「自分の学校のことについて、辞書等を用いて30語程度のまとまりのある文章で記述することができる」といった目標である。新学習指導要領の軸となる学力観を表しており、授業のPDCAサイクルの確立につながるものである。昨年度、本市では全中学校が作成し、今年度は授業改善、充実に活用し、見直しを図っているところである。

市立小中学校では、このような授業改革の取組を通じて、授業におけるコミュニケーション活動や、草津の強みでもあるICTを活用した言語活動の充実を図り、草津型アクティブ・ラーニングの実現につなげている。

二つ目は小中連携である。従来から小中学校それぞれの部会活動で、授業研究や交流を行っており、小学校、中学校それぞれの「横のつながり」は確立している。そこで今年度からは小学校から中学校への接続を意識した小中連携の取組を行い、「縦のつながり」を推し進めている。中でも全ての小中学校が授業公開を行い、校種を越えた参観機会を実現していることは、市内全体の英語教育への意識の向上につながっている。

また、小中学校合同の実践交流や協議は、互いの学校の情報交換や創意ある取組の企画実現にもつながっている。

さらに「縦のつながり」を深める授業の一例として、校区の小中学校をテレビ会議システムで中継した遠隔授業を行った学校がある。小中学校の先生は協力して授業実践を進めているところである。今後も小中学校の「横のつながり」と、そして「縦のつながり」を大切にした連携を推し進めていく。

三つ目は英語を使ったコミュニケーション活動・体験活動の充実である。立命館大学びわこ・くさつキャンパス(以下BK C)の留学生との交流活動については、平成23年度以降、5年以上続いている取組である。

スライド11枚目の左の写真は、留学生と子どもたちが肩を並べてパソコン画面上の地図を見ながら自国のことを紹介し合っている場面である。また、右の写真は社会科で日本の米作りについて調べたことをアジアから来た留学生に伝えている場面である。

このように外国からの留学生と出会って親しくなる交流だけでなく、ICTを活用したり教科の学習と関連づけながら工夫したりした活動を展開するなど、英語でのコミュニケーションを通じた交流の深まりが感じられる。

校外学習で京都や奈良に行った際は、出会う外国人へのインタビュー活動も行っている学校がある。外国語活動で学んだ表現を使いながら、自分たちから声をかけて会話をし、答えてもらったお礼に筆で文字を書いたカードや、折り鶴をプレゼントする学校もあると聞いている。

また、外国との交流については、今年度、オーストラリアの団体やデンマークの学校と手紙やカード、そして年賀状等をやりとりしている学校がある。遠い外国にいる友達とつながる実感が持てるとともに、英語を読んだり書いたりすることへの関心も高まっていると聞いている。

外国語活動や英語の授業を発展させたこのような取組が、外国や異文化への興味を高めるとともに、英語学習への意欲向上にもつながっていると捉えている。

また、中学校で授業のない日には、希望する小学校に対してALTの訪問指導を実施している。年々、希望校数が増えており、今年度は11校がのべ15日実施した。外国語活動では、ネイティブの先生による本物の英語に触れることはもちろん、外国の人と直接出会うことや、一緒に活動ができることが子どもたちの学習意欲を高めている。

加えて、校内研修等にもALTを活用しており、先生の英語力、指導力の向上も図っているところである。

訪問指導を行った学校の子どもたちと先生を対象に、アンケート調査を実施した結果を円グラフに表しているが、ALTが参加した授業について、90%以上の子どもたちが、ALTの先生がいる授業がよかった、これからも増えてほしいという回答をしている。また、先生の回答についても、調査した3項目とも大変高い満足度を示しており、小学校でALTの授業を増やしてほしいとの希望を受けている。

そして、四つ目が今年度導入したオンライン授業である。オンライン授業とは、インターネット上のビデオ通話、スカイプを利用して外国と教室を中継し、外国人講師とのコミュニケーション活動を取り入れた授業で、公立小学校での導入例は全国的にはまだわずかであり、先駆的な取組である。

これまでの小学校外国語活動の指導体制に加えて、新たに外国人と対面してのコミュニケーション活動を取り入れることにより、実生活で外国の人と出会ったときにも主体的に関わり、英語を使ってコミュニケーションができる力を育成したいと考えている。

また、オンライン授業の形態であることが、外国と今つながっているという実感を持つことができ、外国や異文化への興味関心の高まりにもつながると期待している。今年度は本日、参観いただいた志津南小学校を含む高穂中学校区の3校をモデル校として実施しており、来年度以降は順次、市内の全ての小学校が実践していけるように考えているところである。

オンライン授業では、一人ひとりが挨拶・対話する活動や、ペアで講師とやりとりをする活動、グループで単元での学習成果を発表し、交流する活動などを行っている。対面しているフィリピンの先生を意識しながら、学習した英語表現を用いて、思いや考えを伝える発信型の授業を実現している。

また、外国人講師が画面の向こうにいること、教室を二つの会場に分けて行っていることから、学校担任とJTE、英語指導助手は積極的に、そしてきめ細かに支援を行っている。先生がたは活動計画を作成し、事前にフィリピン側に送って、内容を共有して授業を進めている。

そこで、活動の始めには先生が講師と活動の確認をする。そこで先生が一生懸命に外国の先生とやりとりをしている様子を見て、子どもたちも多くを学んでいる。

また、順番を待っている間も聞き手として学べるよう、先生は会場全体を巻き込んだ働

きかけを行っている。さらに、コミュニケーションが苦手な子どもへの温かい励ましは、子どもたちをよく理解している先生の大切な役割と捉えている。

このような先生の指導、支援がオンライン授業を効果的な活動に高めていると考えている。

授業後の子どもたちの感想では、9月当初は英語が通じて嬉しかったとか、話せてよかったといった単純な感想が多かったが、1月、2月の実施では聞きたいことを聞けるようになって嬉しかったこと、相槌やリアクションなど即興的に会話を続ける工夫ができたこと、フィリピンの先生と一緒に歌えて嬉しかったことなど、コミュニケーション能力の伸びが伝わる内容が見られるようになってきている。

実施前と実施4回後、12月に子どもたちを対象に実施したアンケート調査の結果は資料のとおりである。

外国の人と関わろうとする意欲が伸び、思いや考えを伝えたい気持ちが少しずつ高まってきていることが、結果から読み取ることができると思う。参観いただいた本日の授業においても、子どもたちが「英語で草津のこと、まちのこと、そして学校のことを伝えたい」という意欲の高まり、そして伝えることができた充実感を感じていただけたのではないかと考えている。

また、英語のコミュニケーション力についても高まりが見られる。特に自分のことを英語で伝えられる力の伸びを子どもたち自身が自覚できていることが嬉しい成果であると捉えている。まだまだ伸びは小さいが、今後、それが大きくなっていくように取組を推進していきたいと考えている。

あわせて、モデル校の先生対象のアンケート結果を御覧いただきたい。オンライン授業を子どもたちと楽しんでいる先生は9割を超えており、また、中学校の英語学習に役立つ経験であると捉えている先生も8割近くおり、実施の手応えを感じている。

また、「システムに慣れてきた」と答えた先生の割合についても7割を超えている。

その一方で、初めての取組であるため、授業計画や準備に手間がかかること、担任が現地の講師と英語でのやりとりが必要になること、時に通信の不具合が起こることなど、まだ課題もある。来年度の実施に向けて、実施校のどの先生も、そしてどの学級も安心して取り組めるよう改善を図りたいと考えている。

以上、四つの取組をお話ししたが、今後の構想について説明したい。来年度は、この3月に告示される新学習指導要領の内容を踏まえ、それぞれの政策の施策について、具体的な計画を立てて推進していきたいと考えている。特に英語教育推進委員会が中心となっていく、「草津市小中一貫英語教育カリキュラム」の作成については、平成30年度からの先行実施が円滑にできるよう取り組みたい。また、指導体制の強化や充実、オンライン授業の推進、英語を用いたコミュニケーション活動、体験活動の推進を特に積極的に推し進めていく方針である。

その中で小学校の指導体制については、英語でのコミュニケーション活動充実の観点からALT配置の拡充、そしてオンライン授業の推進を考えているが、今後、どのように進



めていくのがよいのかを検討しているところである。ALTの配置については、英語指導のノウハウを持ったネイティブの先生と触れ合い、生活場面に近い状況で幅広いコミュニケーション活動ができるので、今後小学校への配置を進めていきたいと考えている。

一方、オンライン授業はICTを活用し、外国と中継する発信型の活動を行う授業として、平成31年度までに全ての学校が実施できるようにしたいと思っている。授業準備の効率化や通信ネットワークの改善などの課題があるので、これについても改善を図ってきたい。本日は授業の様子も参観いただいたので、このあたりについて、ぜひ皆様の御意見をいただきたい。

本日オンライン授業の様子を御覧いただいたが、子どもたちは本当に積極的に取り組んでおり、楽しんで活動しているのが伝わっている。

このように子どもたちが英語を通じて、仲間とともに生き生きと思いや考えを伝え合う姿を、どの教室でも実現することを目指していく。

また、小中学校の連携を体制にした取組を進め、その成果を市内外に広くお伝えしたいと思っているところなので、今後とも皆様の御協力、御支援をよろしくお願いしたい。

### 3. 意見交換

#### 橋川市長

先ほどオンライン授業を見せていただいて、集中してフィリピンの先生とやりとりをしていたと感じた。後で先生に聞くと、子どもたちは大分緊張していたよと。ふだんはもっとフランクにやりとりをしているということを知って、導入してすでに大きい成果が見えてきているので、今後も取組をより力強く進めなければと思う。

また、課題については先ほどのお話の中で幾つか御指摘があったと思うが、その詳細や改善点について教えていただきたい。準備に手間がかかるとか、担任が一つの会場を二人に分けて受け持っているのがやりとりが大変だとか、あるいは通信の不具合がどんな形で起こっているのか、そういった問題点の具体的なことや、改善策として考えられることがあったら、まずそれをお尋ねしたい。

#### 学校教育課副参事

授業準備等に関わっては、委託している業者から教材等を準備いただいているが、やはりモデル校の先生は、目の前の子どもたちに合った活動にするために、自分たちでオリジナル授業計画を作っているという実態がある。それはそれで嬉しいことではあるが、今後、どの学校でも実践できるようにするためには、やはりモデルプランのようなものが必要だと感じる。

通信については、今日のために準備してきたが、これまでやってきた中でベストの状態ではなかった。見ていただいた中でもちょっと音声途切れたり、画面が飛んだりする場面もあった。安定した通信環境にするということについては、まだまだ改善が必要だと思う。

橋川市長

改善方法については。

学校教育課副参事

それは業者と折衝しないといけない部分ではあるが、草津も長らくネットワークを使っているの、そのあたりはまた担当課と一緒に相談していきたい。

橋川市長

教育委員会としても受けとめて、学校現場の状況が改善できるように進めてほしいと思う。

教育部理事

担当の者が申しあげた他に、今は2回線しかないの、クラスを二つに分けて前後という形でやっているけれども、もうちょっとたくさんの回線を増やすことができれば、それを三つに分ける、四つに分ける、いわゆる少人数でたくさんの時間、相手と会話することができたり、体験することができるということや、例えば先ほど市長の御質問にもあったが、状況を改善するための、例えばお金の必要なことについては、無線LANを教室内に取り入れるということなども、こちらとしては想定しているところである。

ただ、お金の伴うこと、あるいはいろんな課題がほかにあるかもしれないので、そのあたりは市長の御指示のとおり、教育委員会としても研究していきたいと考えている。

檀原委員

それに関連することとして、8日にICT支援員のかたに聞いたのだが、今使っているマイクスピーカーというものについて、カメラと音が出るのと音を拾うスピーカーになっているのだが、その改善がまだ道半ばというか、現在まだ改善中で、ヤマハとかが取り組んでいるということをお聞きした。特に教室からしゃべる声について、向こうには聞こえているのだろうが、後ろの列に下がると、前の列の友達がしゃべっている内容が聞き取りにくいという状況もあるので、音楽で言えばモニタースピーカーのような、自分たちがしゃべっていることとか、演奏しているのが聞こえるような仕組みもあるそうなので、今後はそういった機器の性能の向上で改善される部分もあると思う。

それと今日の授業を見ていて、外国の講師のマイクセットが口から離れているように感じた。ちょっと聞こえにくいから、もうちょっとマイクを近づけてよという指示を出すだけでも、少しは改善できたかなと思うので、その辺は遠慮なく言っている部分かなとは思いうし、仕切りのパーテーションについても、もうちょっと音がしっかり分離できるような工夫ができれば。例えば、カーテンのようなものをもう一枚垂らすとかすると、隣の音が混じりにくくなると思うし、簡単にできることからでも、できることはやっていただけるとありがたい。

橋川市長

もう少し現場の声も聞いて、今言われたような状況であれば、必要な工夫はしないといけないと思う。子どもたち自身ももう少し大きな声で発音しないといけない。今日の授

業を見ても、まだ遠慮深くマイクの前でごにょごにょしゃべっている雰囲気があった。ほかの子どもたちに分かるということも教えていくことも大事だと思う。

#### 川那邊教育長

今御指摘いただいた点は、日本人の一番苦手な部分であると思う。今日の授業でも、向こうの先生は非常に表情豊かに大きな声でこちらに話しかけてくれたが、日本人には少し難しいように感じられる。この間、企業のかたとお話をしている、世界の会議へ若手社員を連れていった際に、プレゼンテーションの技術を持ってはいるのだが、受け答えが上手くできなかったのと、相手を説得する力が弱かったために採用されなかったというお話を伺って、このことは日本人の弱さになってしまっていると感じた。英語のコミュニケーション活動を通じて、実はそういうところも学んでほしいなと思っている。

#### 杉江委員

参観した児童たちは、本当にたくさん壁のように大人がいる中で、自分を何とか出そうと思って頑張っていたなと感じた。

どうしても分からないのは、回線的に一つの部屋を仕切る、という方法しか取れないのだろうか。もう少し大きい声を出したいけれども、隣でも学習しているので、遠慮してしまっている面もあるのではないか。以前に見せていただいた学校でも、歌を歌うのに遠慮しながら歌っている場面があったので、少人数である良さというのを生かすと、グループ同士が教室ごとに分かれてやるのがベストではないかと思う。

#### 檀原委員

そのことも以前聞いたところ、一つの教室の中に、担任の先生が一人いないといけないということで、二つの教室になると片一方の教室にしか担任の先生がおられない状況になるので、それはできないとのことだった。

LANのケーブルはいくらでも伸ばせるから、機器的には二つの部屋でも授業は可能であると聞いた。二つの教室に分かれられるならば、そちらの方が環境的には良いと思うが、規則的な面ではどうなっているのだろうか。

#### 教育部理事

基本的にJTEの先生が一人で授業をするということにはできない。

ただ、今のように、一つの授業を少人数に分けて二つの教室で行うという形が今まであまりなかったので、そういう想定をされてないのかもしれない。別々に違う授業をするのであれば、それはできないだろうが、例えば隣の部屋で同じ活動を分けてする、その一つにJTE、一つは教師が担当することについて、私は可能なようにも思える。

#### 橋川市長

ぜひその形を検討していただきたい。

#### 教育部理事

また現場の声も聞きながら、よりよい形を今後検討していきたい、また発展させていきたいともちろん思っている。

#### 杉江委員

モデル校として先進的に全国に先駆けた取組をされているので、学校としても御苦勞が  
おありだろうと思うので、感謝したいなと思っている。

#### 檀原委員

スカイプを使うと外国とのやりとりもできるわけなので、当然国内の、例えば秋田の学  
校とか、それから場合によっては市内の幾つかの学校が同時に同じ授業を対面ですること  
も可能になると思う。そうすると、いろんな可能性が広がっていくということになると思  
うので、お金もかかると思うが、ぜひW i - F i等、設備の整備も検討いただけるとあり  
がたいと思う。

#### 川那邊教育長

W i - F i環境については、現在の草津の状況はどのように評価できるか。

#### 学校政策推進課長

今現在、無線LANが整備できているのは老上西小学校だけある。他の学校は平成21  
年度からLANを設置した関係もあって、全ての教室が有線LANになっている。そこに  
機械をつないで無線LANという形にしている。

今回、オンライン授業を行うに当たってNTT、ベネッセコーポレーションといろんな  
方法を試してみた。一つはコンピューター自体に持ち運び式のW i - F iを取付けて、無  
線LANにつないでみるというもので、今日はこの方法で授業を行った。学校によって無  
線LANがうまく飛ぶ学校とそうでない学校とあるので、そのあたりは担当の楠見副参事  
が随分と業者と調整をさせていただいているところである。

ただ、特に12時を回ったあたりから大変混み合っつなぎにくくなっているというこ  
とについて、今現在、どこの学校においても課題になっている。

#### 橋川市長

その時間帯は避けないといけないということになる。

#### 学校政策推進課長

はい。ただ、学級数が四つあるとして、2時間目からスタートするとなると、2、3、  
4、5時間目という形で使うことになるので、11時半から大体1時半ぐらいまでは非常  
につながりにくい状況にはなってしまう。できるだけ避けるようにしていきたいと思  
うが、時間の制約もあってなかなか難しい。

#### 川那邊教育長

国の答申を見ていたら、今後の英語教育改善充実方策について書かれていて、英語に対  
してICTの活用で先進的な取組を行う学校では、タブレットPC、電子黒板、テレビ会  
議システム等を活用して、教室内の授業や他地域、海外の学校との交流において進んだ取  
組を行ってきたと書いてある。

今日の授業を見ると、まさに先進的な授業である。草津の英語教育というのは、今まで  
特に県内で注目されることはなかったのだけれども、ここ最近、やはりいろんな取組、特

にICTを活用した取組の中で、英語教育の充実も非常に注目を浴びるように、また評価されるようになってきている。このICTという強みをさらに生かしていきたいと思っている。

**橋川市長**

今、教育長から先進的取組、英語教育が注目されているとお話があったが、その中で以前から行われている検定事業もユニークな取組で、全ての中学生が受験をするということを数年続けている。先ほど成果についてのグラフがあったが、如実にその成果が上がっているということであるが、右肩上がりにどんどん上がっていることがわかった。ただ1年生の時から取組をスタートして2年生、3年生と学年が上がるにつれ、そこまでに積み上げたもので成果は出ると思うが、資料を見ると、3年目以降もまた上がっていて、更に特に27年度にも跳ね上がっているということなので、新しい取組をしたのかなど、そのあたりの要因について何か考えられることがあったら、それをさらに伸ばしていきたい。

**学校教育課副参事**

私も先日、会議でどうしてもこんなに成果が出たのかというお話をいただき、現場の先生がたと改めて話したのだが、1番は外国語活動が始まった平成23年度に5年生だった子どもが、平成27年度に中学校3年生になっていることであるのではという意見があった。平成27年度の中学校3年生は、小学校から学習を積み上げてきた初めての子どもたちなので、そこで受けた検定の成果が大きく跳ね上がったのではないかというのが現場の先生と担当の私との間で一致する点である。

もう一つ一致するのは、やはりICTの活用の効果である。デジタル機器の活用によって、ネイティブの先生がそこにはなくても、ネイティブの発音がすぐ何度も繰り返して聞ける、また活用することで子どもたちのスピーキングを録音しておいて、英語担当の者がもう一度聞き返して指導ができるといった点で、ICTが効果を発揮した。特にこの3、4年ほどの間に活用が進んできており、それがこの検定授業のスピーキングやリスニングの力につながっているのではないかという意見であった。

これらの2点が要因となって、大きく成果をあげられたのではないかと感じている。

**橋川市長**

今後もまだまだ伸びると。

**学校教育課副参事**

そうありたいところではあるが、もちろん上限はあるかと思う。ただ、全国と比較しても高い学力を保つことについては、今後も続けられる可能性が大変高いと私は思っている。

**川那邊教育長**

国で50%の合格率が一つの目標である。草津では大体60%前後まで到達していて、昨年60%を超えたけれども、今年も60%ぐらいだと思う。国が目指している目標よりも10%高いということはすごいことであり、全国でもトップクラスである。県レベルで

言うと、滋賀県は目標よりかなり低くて、草津が滋賀県全体を上げているようなイメージになっている。

もう一つ、小学校から英語を学んできたということだけであれば、これはどこの県でも、どこの学校でもされていることである。やはり英語検定を取り入れたという、英語検定そのものが持つ力が私は大きいと思う。子どもたちが目標を持って、自分の目指す級に挑戦をしていくことで、家庭でも自分で本を買ってやる子が増えてきたとか、図書室でそういう本を借りるとか、そういう話を聞いている。だから、子どもたちが自分で取り組むようになったという力が、一番大事な要因だと私は思っている。

#### **檀原委員**

草津の強みの一つとして立命館大学があって、留学生が最近5年間、外国語活動にかかわっておられるということも、先ほど御紹介いただいた。やはり僕らの子どもの頃を考えると、英語を勉強しても余り使わないのではないかということ平気でみんな言っていた時代だったと思う。

でも、今は大学に行ったら、場合によっては高校在学中に留学をしたりとか、それから身近なスーパーに行っても留学生のかたがおられたりとか、また日本語でない言葉を話しておられることを耳にする機会がすごく増えて、一人ひとり子どもたちの中に、やはり英語を身に付けないといけないとか、それから喋れるようになりたいという気持ちが自然と身に付いてきている、ちょうどそういう時期が始まっているのかなということが感じられる。

留学生のかたでも、5年前に草津に来られた頃は、喜んで活動に参加して下さっていたそうだが、中にはだんだん参加したくなくなってきたかたもいるということ最近耳にした。なぜかという、一つは留学生のかたたちというのは、恵まれた環境で来ているかたもおられるが、そうではなく、やはり生活するのに一生懸命のかたもいて、そのかたたちにとっては謝礼をいただけることはとてもありがたいことではあるのだが、だんだんと謝礼がいただけないようなこととか、学校によっては金額がすごく少なくてちょっとつらかった、といったことをおっしゃっているということ、留学生の紹介をされているかたに伺った。

そういうことがもしあるのなら、英語教育に対して関心が高いのは草津市だけではないので、例えば周囲の市町でより良い待遇のところから声がかかれば、そちらのかたで勤務されることも想像できるし、立命館守山中学校・高等学校などであれば、系列ということもあって留学生の学生をチューターとして来てもらうということも、多分されるのであろうと思う。この間の教育フォーラムの際に八峰町の先生が、秋田の国際教養大学の学生を100キロかけて車で送り迎えをしているという話をされていたので、留学生が草津市の教育のために協力してくれるのであれば、教育委員会としてしっかりサポートできるような体制を作ってあげれば、いい学生さんが継続的に来てくれるようになるのではないかなというふうに感じた。

特に大学院生の中には、母国に帰ると教育者として直接学校を設立する力のあるようなかたもおられるそうである。そのかたたちは授業がそんなに多くなくて、割とフリーの時間もあると聞いている。そういうかたたちは、学校に英語を教えに行くことについて、自分のためにもなるし、自分の国に帰ったときの役にも立つので、ぜひやりたいと思っておられる立派なかたがおられると聞いている。ぜひそういうかたたちを取り込めるような仕組みを作って、ちゃんとサポートできるようにしたら、体験活動とかコミュニケーション活動の中に取り入れることもできると思う。特に小学生は授業というよりも外国の人としゃべった経験が後々、自分が将来こういうことをしていきたいという気持ちにつながるので、もちろんALTのかたも非常にすばらしいのだけれども、また別のものなので、市として、教育委員会として取り組むべき一つの題材として考えるべきだと思う。

また、国際理解のためにも、直接そのかたたちとふれあうことが非常に大事ではないかと思う。ぜひ考えていただけるとありがたい。

#### 教育部理事

留学生に対して、そういう教育機会において謝礼なり交通費というか、そういう面での支援について御意見をいただいたが、確かにそのように感じるころもある。教育委員会としては、立命館大学の留学生に限らず、平成29年度から、学生ボランティアのかたにそれこそ交通費程度の出金というか、そういうものを付けることになっている。全員に付けられるかどうかは分からないが、予算の中でできる限り付けていくこともお認めいただき、そういう支援をしていこうという方向である。そして、今おっしゃったように、有能な学生ボランティアも草津市内でお手伝いしていただくということも考えている。

#### 川那邊教育長

教育委員会としては、檀原委員が言われたことと同じ考えを持っている。草津には国際交流協会、K I F Aがあって、非常に熱心に活動されている。また、組織もしっかりしている。

今年はK I F Aを通じて立命館の学生に学校に来てもらうということを行っている。

#### 学校教育課副参事

以前は学校教育課から直接立命館大学B K Cをお願いをしつつ、課独自でパイプを持って学生を募集していたが、K I F Aでは立命館大学B K Cの中に日本語教室を開かれているということで、大変強いつながりを持っておられる。3者で連携して小中学校で学生がうまく活動できるようなシステムを作っていけたら一番良いのではないかと思う。

#### 檀原委員

実は先ほどの話を聞いたのはK I F Aの担当のかたからで、5年前と変わってきた様子についてお聞きする中で、そういった状況を危惧されていたので、今後さらにいい形を続けていくために、そういった問題を解決しないと、今後の活動が難しくなるよという御助言をいただいたということがあった。

それともう一つ、松原中学校の取組で、地域におられる英語が堪能なかたが、オールイ

ングリッシュの授業に来ていただいているということで、非常に素晴らしい取組をされていると思った。おそらく市内を見渡すと、同じように英語の堪能な地域人材はたくさんおられるだろうと想像するが、そういうかたがたについて、いわゆる人材バンク的なものを作らせていただいたり、またそのかた同士の中の交流であったりとか、授業をするための講習とか研修のようなものも制度化していくと、コミュニティ・スクールを作っていくという草津市教育委員会のかた針のなかで、英語教育、他文化理解、が一つの輪の中に入ってくるのではないかと思う。そういった先例があるので、それを一つのモデルとして、市内全体に広げていけるような形も考えていくと、いい取組がもっと磐石なものになるのかなと思う。

**橋川市長**

松原中学校はターナーさんというかたに来ていただいていた。

**川那邊教育長**

現在は母国に帰られてしまったのだけれども。

**橋川市長**

ああいうかたに来ていただけるとありがたい。

**教育部理事**

探したらもしかしたらおられるかもしれない。ターナーさんの場合は、松原中学校が教育委員会でやっているパイオニア授業という、学校が独自性のある授業を計画して、学校政策推進課がお金を出す、という事業の中で、ターナーさんの謝金もそこから出してもらおうという形で工夫をいただいていた。檀原さんがおっしゃったように、留学生のボランティアを含めて、そういうふうな人材を、言い方は悪いかもしれないが、他市町に逃さないとか、進んで学校のお手伝いをしていただけるようなシステムも今後検討していき、実現していきたいと、改めて思わせていただいた。

**檀原委員**

私よりちょっと年上の女性のかたの話だが、やはり英語が堪能で、京都のサークルのようなどころに行って、英語で新聞を読んで意見交流をすとか、外国から来られている人たちに奈良と京都の町を紹介する活動をされておられる。実は草津に住んでおられるかたで、そういった活動のことはあまり周囲には知られていないのだけれども、そういうかたも実際にいらっしゃる。僕らよりもずっと若いお母さんたちの中には、カナダとかイギリスに留学体験のある人たちが、小さな子どもたち向けの英語教室をされておられることもあるが、やはり地域とのつながりを作る部分で、仕事とは別に、ボランティアでこういった事業にも目を向けていただけるようなきっかけを作っていくと、少しずつつながりを持っていけるのではないかと思う。探すことは大変ではあるが、実は探すと結構おられるのではないかと思う。

**橋川市長**

JTEの登録者について、そこから依頼をするという形であると、より安定した形でか



かわってもらえるということにもつながると思う。ボランティアというやり方もあるし、仕事として草津にかかわってもらえるというところまで興味を持っていただけたら、もう少し幅広く草津で活躍をしてもらえるし、とてもありがたいことだと思う。

#### 教育部理事

JTEからのネットワークというものも情報としてどんどん広げられて、そういう有効な人材を活用できるというところまで持っていったらと思う。

#### 橋川市長

それと、文部科学省が英語教育改革を打ち出されて、小学校での英語の授業は32年度からは3、4年生も対象になって35時間、5、6年生は70時間というカリキュラムになって、中学校ではオールイングリッシュで授業をするということになっている。これは草津市だけに限らず、全国的な話ではあるが、先生がたが対応できるのかなというところが不安ではある。草津市としては、それに対応するために、どういったスケジュールで進めようとしているのか、研修とか能力開発とかマニュアル化とかいろいろ手段はあると思う。

それからもう一つは、先生がたが研修を受けたり、そういったカリキュラムを研究したりするための時間が必要だと思う。その時間を作り出すための業務改善についてもあわせて並行してやっていかないといけない。今でも先生がたは過重な負担だと言われているところに、さらにこの業務が重なり合ったら非常に大変なことだと思うので、そのあたりについてどのように進める計画かお伺いしたい。

#### 教育部理事

市長から御指摘いただいた研修等、いわゆる教員の資質をどのように高めていくかという部分については、学校教育課担当の説明にもあったとおり、「草津市英語教育推進計画」に基づいて、平成32年の学習指導要領改定までに、そういう取組を進めていくという計画を持っているところである。もう一度、そのあたりの説明を簡単にお伺いしたい。

#### 学校教育課副参事

英語教育推進委員会で大変意欲を持って進めているところではあるが、草津市全体の先生の意識と指導力の向上は、大きな課題の一つである。話題にさせていただくのはありがたい。

先ほど今後の方向性の中で指導体制の強化・充実というお話をしたが、一つはALTやJTEと一緒に授業をしていく中で、先生の英語力、それから指導力の向上が図れると考えている。また、新学習指導要領がこの春に告示されるので、その内容理解に関わる研修については推進委員会を中心に取り組んでいきたい。

ただ、現場におられるどの先生も、平成32年度に英語を全て安心して教えられるようになるかというところについては、私たちも来年度以降、検討していく必要がある。御提案、御意見をいただけたらありがたいと思う。

#### 教育部理事

今現在、取り組んでいることの例を申し上げますと、まずALT、JTEを付けている一つの大きな意味として、先ほどの公開授業もペアで行っていたが、ああいったJTEの技能なりノウハウなりを、英語が専門でない小学校の先生が、一緒に授業をすることによって得ていただきたいと考えている。これは平成32年には、担任一人でも授業ができるように、いろんなことを吸収していただきたいという意図である。

それからもう一つは、教育研究所の夜間講座というもので、これは夜間ということなので悉皆研修ではない。希望者だけではあるが、英語教育にかかわる研修を毎年、計画的に組んでいただいている。あるいは夏の研修で、くさつ教員塾というものがあるが、そこでは若手教員を中心に理科教育とか、幾つかの課題に対する研修を行っているが、その中に英語教育を組み込んでいただいているという形で、様々な面から32年を目指して積み重ねていくという計画である。

ただ、現実的にいうと、逆の問題、いわゆる業務の負担という面があるが、それについては佐々木政策監にチームリーダーになっていただいて、今年から取り組んでいるところなので、御説明をお願いしたい。

#### 政策監

今、御指摘いただいた業務の改善については、まさにおっしゃるとおりで、こういった英語だとか、いろいろと新しくやるべき取組がたくさん入ってくる。そこで、今までやっていた業務をできるだけ改善して、こういった新しい取組の準備や、また子どもと向き合う時間とか、一般的な授業の準備、教材研究といったもの、中には当然、ワーク・ライフ・バランスの実現もあるが、こういったものをやっていただくための取組を進めていかなければいけないと思っている。

実は、教育委員会の中で各課横断的に検討チームを作っていて、そこで取組については検討している。今、予算編成の最終段階ではあるが、平成29年度の予算の中でできることも考えてはいるので、その予算が公表されたら、市教委として総合的にどういう取組ができるか、教育委員の皆様がたにもお示しして、どんどん進めていきたいと思っている。

#### 橋川市長

小中連携ということもあるが、中学校の英語の先生が小学校の先生がたを教えるという場面を増やすとか、そういう研修機会を増やすといったことはできないのだろうか。中学校の先生は、オールイングリッシュについて、そこまでの技量を大体身に付けられている状況なのだろうか。

#### 教育部理事

まず中学校の先生がオールイングリッシュで授業できるかということについては、実はもう実際にやっている学校がほとんどで、特にこの前、研究授業等が公開されたが、松原中学校は1年生のクラスからオールイングリッシュを取り入れておられる。ほかの中学校についても、全ての時間ではないけれども、学年の技量に応じてとか、そういった状況を

見ながら、全ての学校でオールイングリッシュを取り入れていただいている。

それから、中学校の教師が小学校の先生がたに教える機会というものについては、いわゆる中学校区のなかで、例えばその小学校で英語の学習をする際に、こういうふうなことをしたらいいというアドバイスをしたり、あるいは中学校の先生の授業を、小学校の先生が参観に行かれるとか、そういった交流が全ての中学校区で既に行われているところである。

#### 川那邊教育長

むしろ、この「草津市英語教育推進計画」にある資料を見ると、英語が好き、英語の授業が好きという子どもの割合は小学校5年生が高く、中学校1年生になったら低くなっていることが気にかかる。そしてその後は、中学校2年生、3年生とまた高くなっていく。つまり、中学校1年生の時点で、子どもたちが小学校で学んできた英語についてのイメージが下がってしまっている。

そこで今草津市がやっているのは、小学校5年から意欲的に取り組んできた英語を、中学校にどうつなげていったらいいかということで、中学校は小学校から学び、小学校は中学校から学ぶという方法で、特に中学校区を中心に今取組を進めているところなので、これからだと小学校3年からになるが、小学校3年生から中学校3年生までの英語を子どもにどう興味づけ、しかも力のつくようにしていくかということを考えていかなければならないと思う。

草津の成功事例について一つはICTであって、もう一つは先ほどもお話した英語検定である。そこは草津の強みとしてあるので、評価も加えながら、また、そこを更に充実していきながら如何に先生の意欲を高めていくかということが大事だと思っている。

#### 杉江委員

私も松原中学校のICTの推進の授業としての英語の授業を参観して、1年生の授業だったのだが、パワーポイントを使って絵本を英語で説明するというもので、1時間全て英語という授業を見せていただいて驚いた。小学校からの英語活動だったり、タブレットを使いこなすスキルだったり、そういうものがその授業で発揮されていたし、中学校の先生もそれを生かす方法で授業をしているとおっしゃっていて目から鱗だった。私たちの時代の英語というのは、単語を覚えなさいとか、文法を覚えるとかだったのに、今は会話で耳から聞く授業になっていた。今日のオンライン授業もそうであったが、子どもたちは授業の中で実際に国際交流を体験していて、人と関わりながらそういう知識を得ているのだと感じた。話すということは人とつながることだし、ICTでつながり、本物のALTの先生ともつながるといふ部分で授業を組み立てておられると。あらゆる良さを取り入れて授業を組み立てておられるのだなということ、以前訪問した松原中学校、また、今日の志津南小学校の授業を見せていただいて感じた。

#### 周防委員

小中連携というのは、自身の子どもも高学年になってきたのでとても気になっている。

この前子どもに、ICTを使って中学校1年生と小学校5年生が英語で交流をしていたと聞いたが、知っている中学校1年生のお兄ちゃん、お姉ちゃんが英語で中学校生活を紹介していたようで、「分かったの」と聞いたら、「何となく分かった」と言っていたが、その取組について中学生の子の親に話を聞くと、家で練習をしていたと聞いた。フィリピンとの交流も大切だが、ああいう本当に身近な交流もいいと思った。中学生になったらこういうふうに見えるようになるんだというのが小学生は分かるし、中学生はいいところを見せようと思うだろうし、あの取組は面白いなと親同士でもしゃべる機会があった。

#### 川那邊教育長

オンラインというのも草津は全国的にもとても評価されるようになってきていて、オンラインの機器は学校内でも取り合いになっている。ここでもICTの活用という強みが生かされている。

#### 杉江委員

強みがあるから、こういう教育環境があるからこそ、できる授業だと思う。

#### 川那邊教育長

子どもたちの英語力を育てていこうと思ったら、前からお話ししていることではあるが、環境がとても大事だと思う。この間、市長ともお話ししたが、京都へ行けば英語とか中国語とかいろんな言葉が電車に乗っても、デパートへ行ってもあふれているという環境である。

ところが草津へ来たら、そういった環境ではない。これからオリンピック・パラリンピックもあるし、もっと草津全体が英語とか外国語の雰囲気があるようなまちになればいいと思うし、この間、八峰町の教育長がおっしゃっていたように、ホームビジットという取組があって、大学の留学生が各家庭に土日留学する制度だそうである。おじいちゃん、おばあちゃんがその留学生と一緒に1泊とか、あるいはその日だけとか過ごすようなものがあって、大学生には幾らか謝礼か補助か何か出るとかおっしゃっていたが、市民がいろんな外国のかたとかわれるような機会、その中で子どもたちも一緒にかかわっていくような町になればおもしろいと思う。それが子どもの力になるのではないか。

#### 周防委員

親がやっていることについて、子どももきっと興味を持つのだろうなという話をちょうどしていたところで、例えば外国人のお母さんとお茶会なり、そういう交流をしたいというような話をされていて、できたら外国人の子どもがいたら、子ども同士で交流してもらえりし、それが一番手っ取り早いかなという話をしていた。なかなか機会は限られてしまうとは思うが。

#### 檀原委員

草津市で取り組んでいる検定はGTECで、何級というものでなく、何点取れたという評価である。また、高校も同じGTECをされているので、中学校のときはこの点だったけれども、高校生になったらさらに何点伸びたということが分かるようになっている。教育長も市長も言っていたように、大人も社会教育、生涯学習の中で、いわゆるTO

E I Cも同じように不合格はなく点数での評価で、前の試験から何十点伸びたということでも何回も受けることができるテストなので、草津市の生涯学習のメニューの中に英語をみんなで学びましょうと、学んだことを使って一緒に交流しましょうとか、そういうことにつなげていって、日本人の中でもそういう雰囲気ができてくればいいと思う。子どもたちだけがアクティブ・ラーニングをするのではなくて、アクティブ・ラーニングは非常に楽しいことなので、教材研究も含めてアクティブ・ラーニングを大人もやりましょうと、そういうこともこの英語教育の取組をきっかけにできたらすばらしいのではないかと思う。

#### 教育部長

大人の英語ということで、このシーズンになると長野県にスキーに行くのだが、スキー場の中に外国人が非常に多くなっていると実感している。その中でお昼御飯を食べに行くと、日本人の店のオーナーさんが外国語を喋りながら、片言の単語でもって対応される。失礼な言い方かもしれないが、もともと田舎のおっちゃん、おばちゃんが食堂をやっていたようなところでも、今では外国のかたとやりとりをしないとイケない。そういった生活に密着したところという部分で、英語を話す外国人と交流するという機会は今後増えていくと思うので、生涯学習課としても市民センターを使って、来年度は指定管理者制度のもと運用されるが、その中でより外国人と交流できるような講座であるとか、ふれあいの場であるとか、そういうところから生活に密着した日常会話を学んでもらって、日常生活の中で外国語を片言でも少しやってみようかという人が増えるような機運というものが作れていけたらなと思う。

#### 教育部理事

予定していた時間が近づいてきたので、最後に何か草津市の英語教育推進のために、一つ、二つあれば御意見を頂戴して、まとめに入っていきたい。

#### 杉江委員

やはりこの英語学習、活動というのはとても新しい取組だと思うが、先ほど葛本校長先生の報告にもあったように、先生が一生懸命学んでいる姿を子どもが見ているという言葉が、私としてはとても印象に残った。

今日指導されていた先生がたを見ていても、一所懸命、子どもたちが伝えようとしていることを、画面の向こうの講師の先生に身振り手振りで伝えておられた。普段の授業にはない形なので、新しいことにチャレンジしていくという部分かなと思いながら、この志津南小学校でも、先生がたが本当に一つになってモデル校として英語教育を推進しておられる。また、それを広げてくださっているということで、本当に大変なことではあると思うが、頑張っていたいただきたいと思った。

#### 教育部理事

最後になってまことに申し訳なかったが、本日、オンライン授業を見せていただいた、志津南小学校の葛本校長先生から少しお話しただけなら。5月から今まで取り組んできていただいて、その手応えについて教えていただきたい。また、本日は市長、あるいは教

育長、教育委員にお越しいただいているので、何か御要望や御意見等があればお願いしたい。

#### 葛本校長

本日はありがとうございました。今日は市長と教育長に来ていただくということで、子どもたちも本当に楽しみにしていた。私が子どもたちを励ますために、「君らの頑張っている姿を見てほしかったんや」といったことを言い過ぎてしまったからか、今日は緊張でカチンコチンになってしまった。ふだんはもう少しアドリブを言ったり、明るく返答したりしながらやっているのだが、今日は本当に緊張の塊のような状況で、余り伸び伸びした姿を見ていただけなかったのは本当に残念であった。普段はもうちょっと伸び伸びとやっているということを付け加えさせていただきたい。

このオンライン授業というものは、例えると予選無しでいきなり全国大会に行ったようなもので、全国大会に行く自分たちの力のなさとか、伝え方が上手できていないことが一気に分かるものである。やはり何回かやっているうちに伝わりにくいことがわかってきて、これでは伝わらないなとか、こんな小さいものでは見えないなということを自然と学ぶことができ、子どもたちには本当に力が付いたと感じている。英語の能力だけに限らず、発表だとかコミュニケーション能力という部分で力が付いたという実感がある。志津南の子どもにそういった教育機会を与えていただいて、本当にありがたかったなということが1点。

それからもう1点は杉江委員からのからもお話にもあったが、本日担当していた6年目の教員については、専門教科は英語ではないのだが、今回こういった機会をいただくことで、学校教育課の楠見副参事の御指導もいただきながら、一生懸命努力して取り組んでくれた。子どもたちの前でも、「私たちがやるからまかしとき」といったふうに堂々と一生懸命やってくれたので、ああいう姿は子どもたちにとっても非常に勉強になったと思うし、頼もしくも感じたと思う。本クラスは、授業中、集中ができにくい児童もいるのだが、そういった子どもをずっと温かく迎え入れられるクラスだったので、その児童もこのオンライン授業にはずっと意欲的に参加できていた。全員が一緒に取り組めた授業だったので、このオンライン授業は重要なものであることを実感している。ぜひとも続けていただきたい。

それと、それぞれの学校において何らかの面で特化しやすい環境づくりについて、ぜひご検討いただきたい。例えば英語に特化した学習を行いたい学校のために人材を派遣していただくとか、もちろん平等という観点も大事ではあるが、特色ある学校づくりのためには補助や支援をお願いしたい。私の学校に限ってではなく、他の校長先生がたも意欲を持って特色ある学校づくりをめざしておられるところなので、草津市として、今でも十分に支援をしていただいているが、今後とも各校の強み、特色に応じた支援をしていただけるとありがたいと思う。今回のオンライン授業については、志津南小学校として、子どもたちのためにと希望し、導入してもらったところなので、成果がでたのだと思う。

言葉足らずな部分もあったかもしれないが、日本一の学校を作ろうと思って子どもたちも努力し、日本一プロジェクトを立ち上げ、昼休みにはずっと草引きをしている意欲的な子どもたちのために、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### 教育部理事

それでは、時間の都合もあるので、ここで本日のまとめを市長、教育長からいただきます。

#### 橋川市長

英語教育の今の現状、あるいは課題について今日は学ばせていただいた。以前から市として取り組んできたことが、確実に成果としてあらわれてきているということが一つ。具体的に言うと、ICT教育、オンライン授業について、これは外国とのつながりもあれば、小学校・中学校間のオンラインでのつながりもあるということでの成果を十分に感じたが、一方無線LAN化の課題も残っているということ併せて認識した。また、以前から積み上げてきた取組として、英語検定を全員受けてもらう形をとってきたのが、今ここで大きく花開いてきたなと感じている。

そして、今日紹介があった中では、立命館大学、近くにほかの大学もあるし、そこに通われている留学生の皆さんとの交流を進めることができるということが本市の強みでもあると感じた。それともう一つは、市内に在住されているかたを中心として、英語が堪能なかたを見つけ出して、そのかたがたを活用するような仕組づくり、人材バンクあるいはJTEに登録いただくようなことも進めていくことが必要である。

それから、既に取組は始めていただいているが、課題としては教員の能力開発について、研修機会を十分にとっていかなければならないし、そういった中では小中一貫カリキュラムとか、そういったものをしっかりと32年度まで、そう日はないので、どんどん進めていって、全員に広がっていくようにしていただきたいと思う。それとあわせて業務改善を進めることで、研修にも十分に対応できるような体制づくりをお願いしたい。

もう一つお話があったのは、町全体が異文化交流とか外国人との交わりができるようなことが進められないかと。これは一朝一夕にはなかなかできることではないが、そういう手だて、手がかりというものを考えていくことも大切なことだと思う。ここでもKIFAとか立命館の留学生と連携しながら、そういったかたがたと子どもたち、あるいは大人自身のかかわりも深めていくということも必要であると思う。八峰町の御紹介もあったけれども、そういったことが今日のお話にはあったので、今後とも進めていっていただきたいと思う。

#### 川那邊教育長

これからの英語を進めるにあたって幾つかの課題も、あるいは報告も出てきたと思うのだが、私は今日の授業と、この会議の発言を聞かせていただいて、幾つか回答というか、その答えがあったような気がしている。

子どもは今日の授業について、大変意欲的に参加していた。授業が始まる前にある子ども

もに、「今日、頑張れるか」と聞いたら、「頑張る」と力強く言ってくれたし、「もし向こうから分からないことを問われたらどうするの」と聞いたら、「イエス・アイ・ドゥーと言う」と。彼なりに非常に意欲を持って、何とかコミュニケーションをしていこうという意欲を感じたし、実際、授業でも大変頑張っていた。そういう前向きな姿勢が特に日本の子どもには必要ではないかなと思った。

それから、担任の先生についてもお聞きすると、当初は英語に対して自信がなかった先生だったそうである。ところが、今日のように英語で子どもたちに話をしながら、フィリピンの先生にも少し話をされていると。まさに、この何か月間であの先生の英語力というか、英語への意欲というのはぐっと高まったと思うし、研修も大事ではあるが、ああいう先生を支えるような学校の雰囲気、校長先生であったり、教育委員会であったりという姿勢も非常に大切であると感じた。

それから、今日は研修と関わって、中学校の先生も参観にいらっしやっていた。中学校の先生も小学校のよいところに学び、そしてまた小学校の先生は中学校に学ぶという、このことで小中の連携あるいは一貫が成り立つのだということも感じさせていただいた。

最後に葛本校長先生に、志津南小学校を英語で誇れるような、全国に誇れる学校にしたい、という強い決意を述べていただいた。実は前々からお話は伺っており、葛本校長先生は英語をこの学校の一つの特色にしていきたいとおっしゃっていた。大学も近いし、それからICTもあるし、具体的などころでは1日、ある日を決めて外国のかたが何名も何名も来られて、子どもが英語を使わざるを得ないような環境を作りたいと、そんな夢も持っておられたので、また話を聞きながら葛本校長先生の夢がかなうような支援ができればと思っている。校長先生から学校経営の意欲を大変感じさせていただいたことを、とても嬉しく思っている。

#### **教育部理事**

市長、教育長にそれぞれまとめていただいて、本市の英語教育の方向性等について、共通の認識を持ち得たと思う。御提案いただいた内容については、実現に向けて、事務局でもしっかりと検討してまいりたい。

#### 4. 閉会

教育総務課長が来年度の総合教育会議の開催について連絡

橋川市長が閉会を宣言